

## 北海道酪農村における後継者問題

— 北海道天北地方幌延町H部落の実態調査 —

安倍恒雄 (北大 大学院)

農業後継者問題は、今日の農業・農村問題のなかで重要な位置を占めてきている。それは、専業経営形態として展開し、「大規模化」した酪農においても例外ではない。酪農経営における労働増重、負債増大、健康破壊等の生産・労働一生活過程の諸問題に、後継者問題は少なからぬ影をおとしているといえるのである。本研究は、草地形「大規模」酪農地帯として形成しつつある天北地方、幌延町H部落の実態調査研究であり、酪農民の生産・労働一生活過程の諸問題へ、後継者問題から接近しようとするものである。

### (1)

酪農村の後継者問題を、ここでは「家」の、そして「地域」の後継者問題としてとらえてみたい。

「家」の後継者問題とは、なによりも生産と生活の単位である「家」の継承にかかわる問題であるが、それは、生産手段としての土地相続を基軸として、農業の後継、そして親の扶養を含めた生活の世代の再生産の問題といえよう。酪農村にとって、これらは一体となっている。したがって、後継者問題は生活の基盤である農業の後継にかかわる問題といってもよいであろう。ところで、酪農経営における後継者の位置は次のような実態を占めている。①酪農経営の大規模化は労働の増大を伴っているため、家族労働力の確保が必要不可欠なものとされている。②現在の生産力を支えている大型機械「一貫」体系とその労働編成の中核的担い手として後継者層が位置つくこと。③後継者の存否が、経営の将来性を規定する社会的基準とさえなり、資金融資、土地売買の際に、社会的ハンディをさえ受けるといえること。それゆえ、

酪農経営の展開と「家」の生活史のなかでとらえ、階層分化と後継者の動向との関連を明らかにする。

### (2)

ところで、「地域」の後継者問題とは、地域社会生活の全般にかかわる次世代の担当者の存否の問題であるが、酪農村の場合、農業後継者が即地域の後継者となっている。しかも、それは次りような領域でも重要な問題である。

酪農経営の「大規模化」は農業技術の変革を伴った。その際、技術の普及、導入に、後継者の研究集団、作業集団が重要な役割を果たしてきたといえる。また、機械化による生産力上昇は、農家の個別作業体系では解決しえない構造となり、共同作業を不可欠なものとし、共同作業の担い手は後継者層である。しかし、離農の増大による部落ごとの年令集団の解体、また部落ご自身体の機能喪失のなかで、後継者集団は解体・再編されている。それは、部落を基礎とした社会構造から、町の社会的諸機関と個別農家との直接的結合を軸とした社会構造への変動といえるであろう。農業技術の普及、経営の管理もかかる構造のもとに再編さへつつある。したがって、後継者と地域社会とのなかのやりがどのように変化しているかを明らかにすることが重要である。

### (3)

以上の点を考察し、最後に、今日の農業後継者像について考察したい。経営構造の変化や、共同作業の必要性、社会的諸機関との結びつきの深まり、従来の急成長から内実重視への転換等の変化のなかで、後継者は生産・労働一生活過程の諸問題に、世帯主とはちがった対応を模索しているといえるだろう。